

集落活性化事業 報告書

法政大学現代福祉学部現代福祉学科 関司ゼミナール
代表 小森智貴

喜多方市板の沢集落とは・・・

人口 35 人、戸数 10 戸、高齢化率 40%、最年長 91 歳 最年少 15 歳。

活動内容

日程	内容
2010年 8月29日～9月1日	集落訪問
10月26日	元気塾
11月21～22日	喜多方・会津若松報告会
2011年 2月5～7日	集落訪問
10月29日	土手かぼちゃ祭り
11月23日	元気塾
11月26日	青空市場マルシェ@築地

◆ 1年目の取組み (2010)

○板の沢集落概要 (2010年調べ)

高齢化率 40%と今は限界集落と呼ばれることもないが10年後、20年後はどうなるかわからない。グラフを見て50歳以下のまだまだ活動できる世代が多い今こそ行動を起こさなければいけない。

○これまでの活動 (流れ)

何度も板の沢に行き集落の方々の意見や想い、学生の意見や提案を話し合った。その結果が「かぼちゃ祭り」、「青空市場マルシェ出店」へ。そこに行きつくまでの活動をそれぞれ振り返っていきたい。

○一年目 2010年 夏

はじめて集落の方々に会いお互いに緊張していたが徐々に打ち解けることができた。集落支援員さんからの集落概要説明、ヒアリング活動、集落歩き、交流会、意見交換会という活動を通して「知る」ことから始まった。

○元気塾

塾生の方々と集落を歩き、資源や強みになるものはないか、特徴・課題、今後に向けた提案などを模造紙にまとめ発表した。また夏の活動で学んだことを板の沢マップ、集落の特徴や課題、気になったことや今後に向けての提案をまとめ発表。

○喜多方・会津若松報告会

集落を盛り上げるということで2つの企画を提案。「板の沢はやっぱり土手かぼちゃだ」ということでハロウィンパーティー、福島県は駅伝強豪校、有名な選手がいるということで私、小森が駅伝やマラソンを独断で考案した。今思うと現実的ではないものだったと思うが「かぼちゃ祭り」という形で提案が活きる。集落の方々にもこんな突拍子もない提案を学生に求めているんだと言っていた。

○1年目のまとめ

集落を知ることから始まり、話し合いまとめ、提案することができた。集落の方とも信頼関係ができはじめ「2年目の活動しよう」という意志が学生に、「冬の板の沢も見において」と集落の方々に誘っていただき翌年の活動へ。学生も集落の方々も模索しながらだったが前に進んでいると感じていたと思う。

◆2年目の取組み（2011）

○二年目 2011年 冬

集落の冬の顔を知ることができた。伝統行事の団子刺し体験、雪かきを体験。ヒアリングも行い冬の悩みを聞き、近況報告をした。その年の夏に訪問する話もあったが、学生の実習の関係、そして震災で中止になってしまう。

○かぼちゃ祭り 祭りの様子

震災などの関係もあり事前に訪問して準備などができなかったが学生は祭りを盛り上げるための行事を考案。かぼちゃ転がしは山形県尾花沢市丹生のお祭りを参考にした。かかし作りは獣害対策に結び付けハロウィンをイメージして制作した。かぼちゃを様々なイベントに落とし込み、集落住民、学生に土手かぼちゃへの気持ちが高まったと思う。また、かぼちゃ料理にはレパートリーが増し元気塾の方々にも板の沢には「土手かぼちゃ」があるとインパクトを与えたと思う。お祭りの最後には真空パックにしたかぼちゃを配った。後日の元気塾で空気が抜けてしまったなどの指摘をいただき改善した。改善した商品をマルシェで販売した。全員参加を目標としたが集落のお母さんがかぼちゃ料理作りに専念し

たため他の行事に参加できなかった。もっとかぼちゃ料理を考えようという話が出た。祭り後の反省会で意見、反省を共有した。次は法政大学の学園祭で出店したいという話も出た。クラッチバックに集落の方々、学生の気持ちを込めた。板の沢大好きです。

○青空市場マルシェ@築地

土手かぼちゃ、板の沢の PR を目的としたかったが原発の影響、風評被害に負けないという思いも込めての販売。完売だった。

板の沢集落概要 (2010年調べ)

➤ 人口 35人 (男性14人・女性21人)

➤ 戸数 10戸 (8人家族もいる)

➤ 高齢化率 40%

➤ 平均年齢

全体 57.7歳

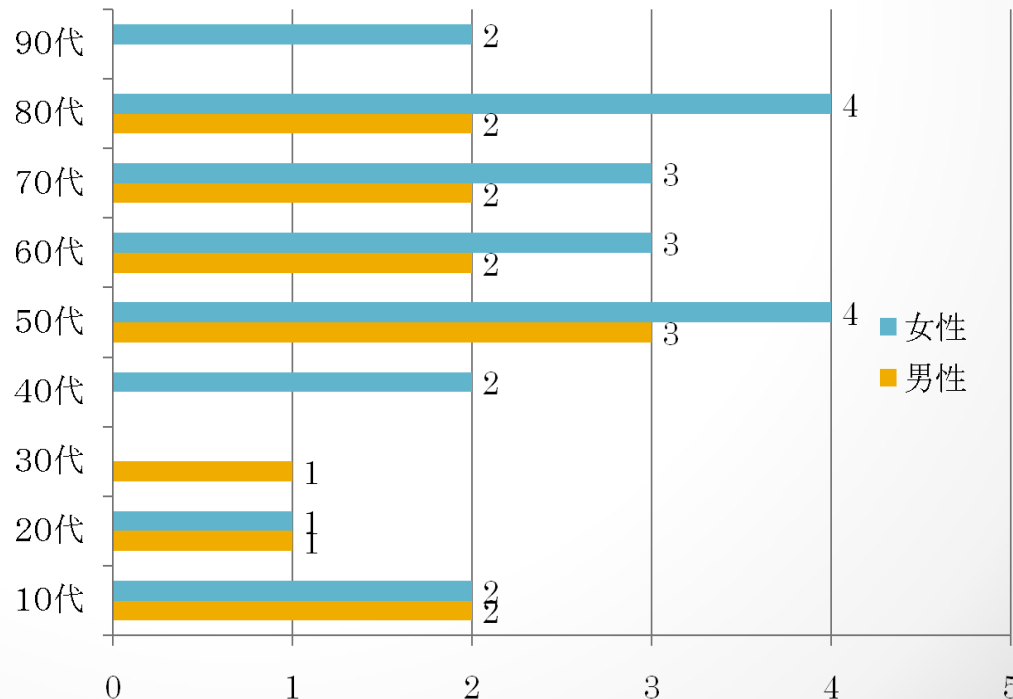
男性 56.5歳

女性 58.4歳

最高齢 91歳

最年少 15歳

年代別性別分布



これまでの活動（流れ）

日程	内容
2010年 8月29日～9月1日	集落訪問
10月26日	元気塾
11月21～22日	喜多方・会津若松報告会
2011年 2月5～7日	集落訪問
10月29日	土手かぼちゃ祭り
11月23日	元気塾
11月26日	青空市場マルシェ@築地

振り返る・・・

一年目 2010年 夏



佐藤さんによる集落概要説明



集落の方々と交流会



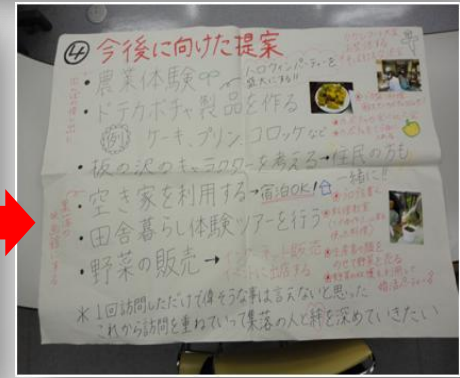
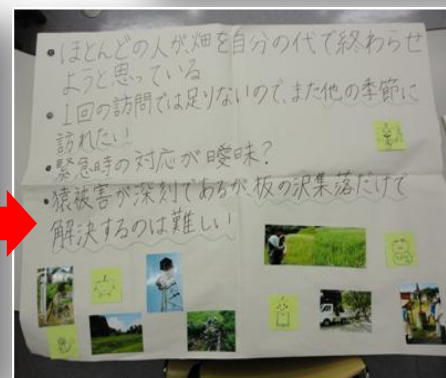
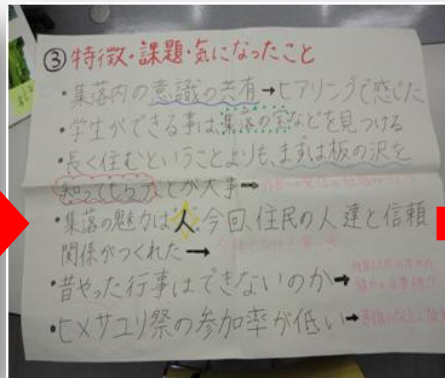
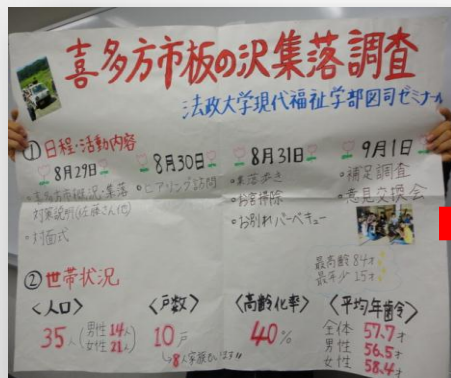
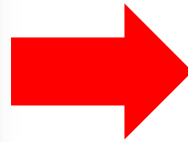
意見交換会



ヒアリング訪問

集落・人・現状・出来ることを知る！！

元気塾



夏の活動をもとにゼミで話し合ったことを発表

喜多方・会津若松報告会

提案①：駅伝・マラソン大会

なぜ、駅伝・マラソンなのか？

→駅伝強豪校・有名な選手がいる!!

EX)・田村高校、いわき総合など

・東洋大の柏原選手

→現代のランニングブームに便乗する

→山道を生かすチャンス



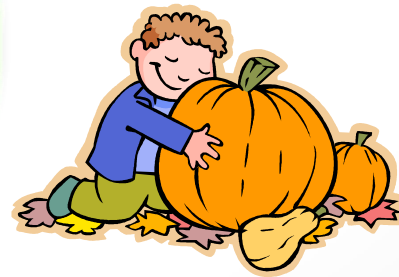
提案②：ハロウィンパーティー

なぜ、ハロウィンか？

→ドテカボチャのPR

→祭りの再開催

→集落外部の人を泊めるチャンス



今年の活動を踏まえてふたつの企画を提案した



1年目のまとめ



1. 集落歩き・ヒアリング・交流会などから集落・人・現状・問題課題を知る。
2. 夏の活動をもとにゼミで模造紙に整理し、それを元氣塾で報告。
→そこで問題・課題点が浮き彫りになる。
EX)集落の意識・情報の共有、強み・PRポイントなど
→今後集落がどうなりたいか方向性を示すきっかけになる
3. 報告会でマラソン大会・ハロウィンパーティーを提案。

二年目 2011年 冬



豊作祈願を願う団子刺し体験

夏とは違った冬の集落に触れる🍡



かぼちゃ祭り



優
川柳

板の沢
転がるかぼちゃに
みな笑顔

かぼちゃ転がし・かかしコンテスト・川柳大会・かぼちゃ料理

祭の様子



土手かぼちゃを真空パックにして配った

青空市場マルシェ@築地



風評被害に負けず完売！！

2年目のまとめ

1. 冬も訪れることで知らない集落の顔を知る
2. 提案実現に向けての話し合い

徐々に提案に現実味が帯びてくる・・・



板の沢の売りは
やはり土手かぼちゃだ

その後、板の沢からかぼちゃ祭りをやりたい
→かぼちゃ祭り開催へ



二年間のまとめ

- 学生からの意見・提案が多く**受け身的**だったが・・・
- 今では集落から「こうしたいからここを手伝ってほしい」と**方向性**を示し、学生は縁の下の力持ちになれた
- お祭り開催、イベントへの参加と**集落に主体性**が芽生えた
- そして、**お互いの信頼関係**が生まれたと思う

板の沢集落と関わって

- 今後も板の沢集落と交流していきたい
 - 他の友達・後輩を誘って行きたい
 - 何かやりたいけど関わっていける責任は持てない
(就職活動・社会に出ると時間がないため・・・)
 - マルシェのように関東で何かやるときは協力したい
 - 法政大学の学祭で模擬店を出したい
 - 東京に来てもらって観光案内したい
- 板の沢に関わっていきたい



1. **Keep** . . . 福島県と関わり続けること、繋がっていること、発信し続けること

2. **Problem** . . . 学生というモラトリアムな存在でありながら、その後どのように関わっていけるだろうか...

3. **Try** . . . 福島県の集落が合同でマルシェのような市場もしくはお祭りを開催したい

最後に・・・



二年間、本当にありがとうございました！！
これからもよろしくお願いします！！





ありがとうございました。

○2年目のまとめ

1年目の活動から何ができるかを考えた。足元を見て一步一步確実に段階を踏んでお祭りという一つの結果へと結びついた。しかし、現状に満足をしていない集落の方々がいた。出会った時とは学生も集落の方々にも変化が生まれた。次のステップを見据えたことでマルシェにも参加ができた。就職活動で忙しくなっていく学生側から力になっていくことが難しくなっていくが集落と関わり続けたいという思いは1年目以上に高まった。

○最後に

本当に素敵な出会い、思い出をありがとうございます。そしてこれからもよろしく願いします。ゼミ生がまたみんな笑顔で福島県に行けるように。

いろいろと本当にご迷惑をかけましたが、僕ら学生が福島県、板の沢を好きということだけは嘘偽りのない事実だということだけは口を大にして言わせてください。

本当にありがとうございました。